



WCS

25

11

35

94

24 3

25

25

4 4

26 3

()

%

%

574	460.0ha	1,459
64	9.9ha	425
46	3.3ha	23
(370ha)		(25ha)

23

25



4



4

4

4



2

46

2

2

5

2



11

22 25

52

4

4

25

4

25

80



4

4,811ha

1,602ha

FOEAS



FOEAS

132ha



157ha

FOEAS

FOEAS

20



FOEAS

100

25

4 4



11

)

(

26 2

25 5

7

26

1

26

1 3

	H24	H25
	11	4
	3	0
	4	0
	0	0
	18	4

4 4

3JA	JA		JA		JA
	169				346ha

3JA



		8	7		
H22	14	6000		H24	20 4000
H22	169	350ha		H24	168 375ha
3	20				



	4ha		2000
H22	18		H25 25
			7
H22	0		H25 17

10

JA

29

26.3ha

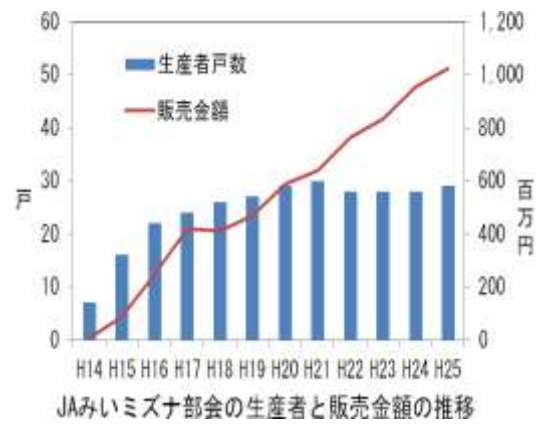
JA

40

4

JA

12



10

10

2

/	H14	16a	H25	91a
/	H14	3t	H25	107t
/10a	H14	2t	H25	12t



10a

7

1

4

CO₂

JA

21

7.3ha

CO₂

CO₂

CO₂ 500ppm

CO₂

CO₂

CO₂

8:00 16:00



/

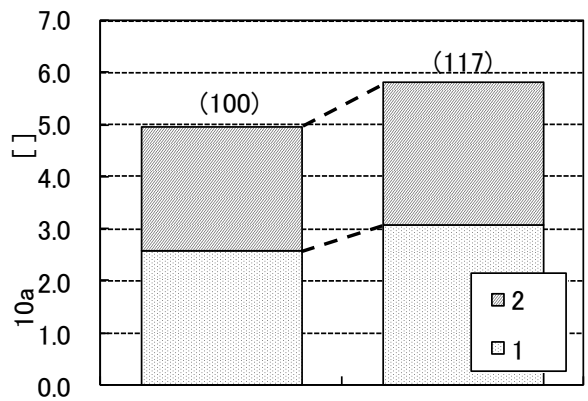
(CO₂)

1

17%

31%

60



1 H24

10a

8

16.3ha

()

1

PR

(POP

)

4

(WAKERU Ver2)



-

7

4

571
94

460ha
40ha

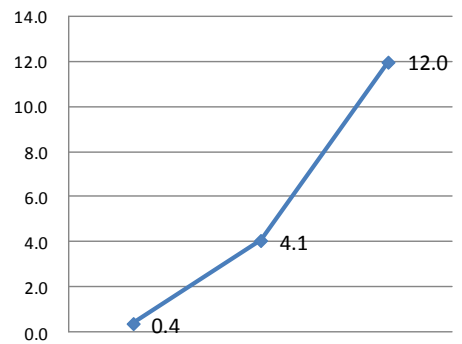
130ha 230ha

28



25
5,944
2,000
12 10a 100
12ha

85



JA JA

10

19

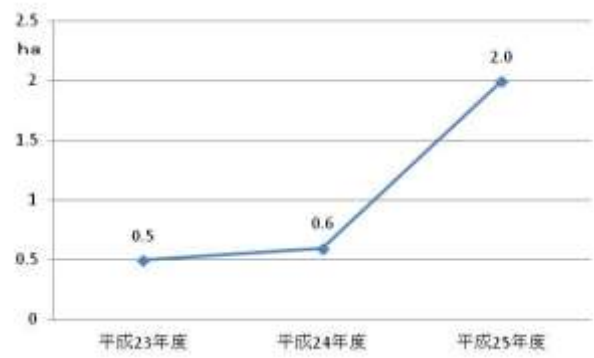
10.7ha



25

6
2.0ha

20



11

69

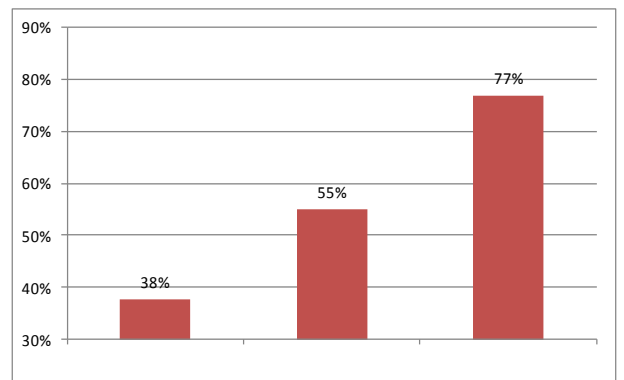
283ha



25

15

77



43ha

33

12

25

7 9

			4	29 9 13 8	
					6 10
			5 5) 5		
			(1.4%) 2.3ha/165ha		
			(1.4%) 2.3ha/165ha		
				C	
			0.5ha		
			0.8ha	1	

			1 (
			4		
					(M
			/		
				4	
				JA	
		9	(7 54	139%	2

対象作物	課題名	市町村	結果の概要
水稲	「元気つくし」生産技術の確立(地域に適した全量基肥施肥の検討)	久留米市 (田主丸町) 大刀洗町	基肥一発肥料を比較検討した。生育初期の窒素肥効を抑え穂肥時期の肥効を高めたタイプの肥料の方が、収量が高くなった。 本年は、初期生育が旺盛であったが、初期生育が抑制される気象条件の年もあるため、継続して検討する。
水稲	「元気つくし」生産技術の確立(倒伏しない栽培技術の確立)	久留米市	大豆後で窒素分が多いほ場での施肥を検討した。分施肥系では基肥を減量すると倒伏が軽減されたが、基肥一発肥料の施肥量減では倒伏程度に差がなかった。
麦	「ミナミノカオリ」の高品質省力生産のための施肥体系の確立	久留米市 (田主丸町)	現行の分施肥系と比較し、緩効性追肥を検討した。収量は同程度で、タンパク含有量はやや低かったものの目標値は超えており、穂揃期追肥の省力化の可能性が確認できた。
大豆		久留米市 (城島町)	地下水位制御システム(フォアス)を施工したほ場は、8月中旬と9月中旬のほ場が乾燥した時期に地下灌漑を実施した。その結果、暗渠のみ施工ほ場に比較し、大豆の収量が2割以上増加し、大粒比率が高く、百粒重も大きく、大豆の安定生産に効果が高いことが確認できた。
キュウリ	キュウリにおけるCO ₂ 日中施用による増収技術の実証	久留米市	前年度に引き続き、実施した。二酸化炭素を灯油燃焼炭酸ガス発生装置で発生させ、加温機ダクトを利用してハウス内に還流させた結果、流れ果が少なく生産量の増加が見られた。 現在栽培中であり、継続した調査を行う。
サラダナ	サラダナの耕盤改善による白斑対策の確立	久留米市	夏場に過湿によるMn過上昇が発生しており、耕盤改善し加湿改善することで、発生を軽減することができた。 複数年にわたり、調査を継続する。
トルコギキョウ		久留米市 (北野町)	10月初めに定植したトルコギキョウは、11月中旬に発蕾し、2月上旬時点で、開花させる蕾と枝数が確保され、順調に生育している。開花時期については、3月下旬～4月にかけて継続調査する。
ユリ	EOD-Heating処理がオリエンタルユリの生育や葉焼け軽減に及ぼす効果の実証	久留米市 (田主丸町)	試験区(日没後14℃4時間→10℃)は慣行区(12℃一定)と比較して、試験区の方がやや草丈が長く、生育揃いも良い。葉焼け症状も見られない。重油削減効果は14%であった。
カキ	カキのジノテフラン剤の樹幹塗布処理技術の確立	うきは市	ジノテフラン剤の樹幹塗布処理により果実へのフジコナカイガラムシの寄生果率は低下した。それによる軟化果実の発生のが減少し青果率が向上した。
カキ	「早秋」のジベレリン処理による結実安定技術の確立	うきは市	カキ「早秋」に対するGA200ppm処理は結実率向上に有効であった。慣行作業(摘蕾)と無摘蕾GA処理による作業時間と着果量の検討を要する。
イチジク	とよみつひめ(キバル台)の生育特性調査	久留米市 (三潅町)	いちじくの改植更新対策で導入したキバル台のとよみつひめは、新植園並みの生育が見られた。着果果実の品質調査を行う必要がある。
飼料イネ	「たちあやか」の地域における栽培適性と飼料特性の検討	久留米市	「たちあやか」の当地域における早晚性は中生に属し、出穂期は8月28日頃、黄熟期は9月24日頃であることを確認した。草型は茎葉型で、「たちすずか」と同様な極短穂の形態的特徴を示した。飼料成分分析の結果、低消化性繊維含量が少なく、「たちすずか」と近似する飼料成分構成であった。
飼料イネ	「たちすずか」のWCS生産に適した窒素施肥法および栽植密度の検討	朝倉市	当地域における「たちすずか」の茎葉多収栽培には、7月下旬頃の追肥と栽植密度の増加が籾の減少につながり、効果的であることが確認できた。

No				
1				4
2	JA	!	4	5
3				6
4				6
5	JA			6
6				6
7				6
8				6
9				6 4
10				6
11				6
12	JA	54		
13	JA			
14				
15	JA			
16				
17	JA			6
18				5
19				
20	JA			
21				6
22				
23				
24				5
25				
26				5
27				6
28			4	
29				
30				

No			
34			
35			6
36			6
37			
38			6
39			
40	JA		6
41			
42	JA		4
43	JA !		4
44			
45			
46			
47	JA		5
48	66		5
49			
50	JA		6
51			6
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59	JA		
60	JA		
61			
62			
63	JA		
64			
65			
66	JA		

